

岡山ロータリー
FREE Vol.6
JAN 2014

岡山から日本を元気にするフリーペーパー

OKAYAMA MOVE UP

SPECIAL INTERVIEW 2

田中 緑

PHOTO DIARY

JAPAN MOVE UP 公開収録

EXILE TETSUYA

SPECIAL INTERVIEW 1
EXILE J Soul Brothers from EXILE TRIBE

今市隆二

HEADLINE TOKYO
WEST HEADLINE

発行人: 渡 岡典 (株式会社HEADLINE WEST) / 一木 広治 (株式会社ヘッドライン)
〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-14 Leeビル4F TEL:086-250-9089
編集・製作: 株式会社ヘッドライン
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-9-6/ビル3 403号

日本を元気に！



HIRO さんと同じステージに立てたことは誇り

一木「2013年はどんな年だった？」
 「2013年は、とにかく HIRO さんの勇退というのを中心に、EXILE をはじめ、僕たち三代目 J Soul Brothers（以下、三代目）を含む所属事務所 LDH が動いてきた1年でした。その中でも EXILE さんと一緒にツアーを回らせていただいて、HIRO さんの生のパフォーマンスを見たり、一緒にス

テージに立たせていただいたりしたことは、すごく貴重な体験でしたし、誇りです。とにかく2014年に向けて気合が入るような1年でした。HIRO さんがいないと、EXILE もなかっただろうし、もちろん三代目も、僕自身もいなかった。だから、HIRO さんの最後のパフォーマンスを見て学ぶところもたくさんありましたし、HIRO さん

に恩返ししたいという気持ちも強かったです。パフォーマンスしている HIRO さんはすごく格好良かったです！ その姿を見て僕たちも自分たちなりに感じるものがあった。それを今後につなげていきたいし、バラードで踊れたり、いろいろな曲に対して変化したりするところなど、三代目らしさももっと出していければいいと思っています」



三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBE

今市隆二

デビュー3年目となる2013年は、大みそかに2度目の紅白歌合戦出場を果たすなど、大きく飛躍したダンス&ヴォーカル・グループの三代目 J Soul Brothers。名実ともに、トップアーティストの仲間入りを果たした彼らは、元旦に初のベストアルバム『THE BEST』とニューアルバム『BLUE IMPACT』をリリース。ボーカルの今市隆二が2014年にかける思いを語る。(聞き手・一木広治)

PERFECT YEAR は三代目が弾みをつける

一木「年明け、いきなりライブツアーですね」

今年は、LDHのアーティストが1年をかけてライブをするという「EXILE TRIBE PERFECT YEAR 2014」が幕を開けましたが、三代目はその第一弾として、1月8日にツアーをスタートさせました。三代目は特攻隊長的なイメージがあって、期待されていると感じているところもあるので、

責任感というか、自分たちが先陣をきって弾みをつけてやるという思いはあります。プレッシャーより、“かましてやる！”という気合のほうが大きいですね(笑)。デビューして3年経って、自信というより責任感が強くなってきた気がします。ダンス&ヴォーカルグループですから、ボーカルが中心になって、パフォーマーが周りで支え

てくれているので、自分がしっかりしなきゃという気持ちがあります。ボーカリストとしては、しっかりと歌を磨いて、ソロにいけるぐらいの力をつけたい。歌に深みを持たせて、“うまいね”ではなくて、“いい歌だね”と“ありがとう”を言ってもらえるような歌手を目指したい。聞いてくれる人の心に刺さるような歌を歌えたら最高です」



撮影・蔦野裕

POSITIVE | 金言 | 「音楽にジャンルはない。あるのは良い音楽と悪い音楽だけだ」(デューク・エリントン)

2014年は挑戦の年にしたい

一木「元旦にはアルバムを2枚リリースしたとか」「はい。4枚目のオリジナルアルバム『BLUE IMPACT』と初のベストアルバム『THE BEST』が発売されました。『BLUE IMPACT』は、ツアータイトルと同じなんです、そのキックオフアルバムになっています。ツアーを意識して制作しているので、ここでこういう曲があったらいいとか、こういう曲調の雰囲気の曲が欲しいとか、自分たちの中でイメージできていたものがあったので選曲に、そんなに苦労はなかったです。このアルバムを聞いていただくと、ツアーのイメージもわくと思いますし、そのイメージを持ったまま会場に来てもらうと何倍も楽しんでいただけるんじゃないでしょうか。『BLUE IMPACT』という名前は、パフォーマーの ELLY がつけました。三代目のテーマカラーがブルーで、2014年は、進化した三代目が衝撃のライブを見せるという意味でインパクトという言葉を使った。ELLY がそう提案した時は HIRO さんもその場において、“それカッコいいね”って即決でした。ELLY はそういうネーミングセンスがあるんです。『THE BEST』は、僕たちの3年間でぎゅぎゅ詰まったアルバムになっています。今までのシングルとか、ライブでの定番曲とか、ファンの方に一緒に育ててもらった楽曲とか。EXILE TRIBE として収録させ

ていただいた楽曲もあるので、継承感も伝わるとと思います。とにかく三代目の3年間で、三代目を知っている方にも、知らない方にも感じていただける内容になっています。メンバーで相談して、もっと入れたい曲もあったんですけど、渋々外した曲もありましたし、選曲には結構時間がかかりました。今年の初めは、2枚のアルバムとライブを中心に活動することになると思いますが、個人的にもライブをやりたいですね。その中で、例えばピアノを弾き語りしたり、英語で歌ったり、今年は常に何かに挑戦したい。そういうことを積み上げていくことで、自分自身の成長にもつながるし、メンバーみんながそういう思いを持っていると、それがまた三代目の活動に返ってきて、グループとしてももっとすごくなれると思う。2015年には、ドームツアーをやりたいと思っているし、デビュー10周年となる2020年には、オリンピックでパフォーマンスをしたいという大きな夢がある。それを実現させるためにも、今年は挑戦の年にしたいですね」



メンバーは人生をかけてともに歩む家族

一木「三代目はすごく仲いいよね」「いいですね。三代目って、自分にとっては、もう自分そのものという感じなんです。自分は三代目だし、三代目は自分だというぐらい一心同体な存在。そしてメンバーはファミリー。ほぼ毎日一緒にいるし、人生かけて一緒に作品を作り上げていく家族です。僕は基本的にポジティブで、大丈夫でしょというタイプ(笑)。つらいことや悲しいことがあっても、それは絶対に今必要なことで、絶対次につながるいいことなんだと考えるようにしてる。まあ、三代目に入ってからクヨクヨしている暇なんてなかったというのはありますけど(笑)。去年は、本当にいろいろな仕事をさせてもらいましたから。東日本大震災の復興支援プロジェクトで、被災地でパフォーマンスした時は子どもたちがすごく素直で、真っ直ぐにこちらを見てくるので、逆に自分たちが元気をもらいました。また、岡山でのラジオの公開録音もすごく楽しかった。岡山には、その時初めて行ったんですけど、部屋に入った瞬間にすごく盛り上がってくれて、めちゃくちゃうれしかったです。その時に、もう次は絶対にライブで帰ってきますって約束したのに、まだその約束が守れてないので、すごく申し訳ない気持ちです。でも絶対に行きます！絶対に行きたいと思っていますので、待っていて下さい。本当に前回行かせていただいた時に、温かく迎えてくれたので、今度はこちらが元気を与えに行く番だと思っていますから、期待してください。また、今回のツアー『BLUE IMPACT』

に足を運んで下さる方は、進化した三代目に注目していただきたいです。昨年、EXILE のツアーと一緒に回らせてもらって、ドーム規模のツアーが経験できた。その時に自分たちのツアーも意識しながら、やってきた部分もあるので、そういう意味では成長していると思うし、より三代目らしきみたいなものも明確になってきた部分もたくさんあったので、そういうところも全面に出していければいいですね。ちょっと前にニューヨークに行って、ボビー・ブラウンのライブを見たり、アポロシアターに行ったりして、刺激を受けまくったので、それを自分の中にしっかり入れて、それをツアーの中で、いい形でアウトプットできるように、全力で走り続けたいと思っています」



一木広治 (ICHIKI KOJI)

株式会社ヘッドライン代表取締役社長 / 二十一世紀倶楽部理事事務局長 / ライオンズ日本財団評議員 / 株式会社LDH エグゼクティブプロデューサー / 株式会社ローソン顧問 / 株式会社モブキャスト エグゼクティブプロデューサー / アンファー株式会社顧問 / 東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会事業広報アドバイザー / 淑徳大学人文学科客員教授 (2014年4月～)

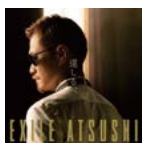
RYUJI'S POSITIVE ITEM

いつも前向きな今市隆二の気持ちがアガるポジティブアイテムを紹介

FOOD

おいしいものを食べると上がります。好きな食べ物は、寿司、肉、ラーメン。もちろんお酒も大好き（笑）。

MUSIC



自分たちの曲も聞きますし、もちろん EXILE さんも。ATSUSHI さんの曲は心に刺さりますね。最近だと『道しるべ』とか。あとは洋楽も含め、とにかくオールジャンルで音楽は好き。

MOVIE



『アルマゲドン』のブルース・ウィリスがかっこいい。あんなオヤジになりたい（笑）。あと、最近見た映画ではディカプリオ主演の『華麗なるギャツビー』。これは ATSUSHI さんに勧められたんですけど、めちゃくちゃかっこいい。50年代が舞台なんですが、現代のテイストも取り入れていて、しびれます。ラストは切なくて泣いちゃいました（笑）。

COMIC

GTO の鬼塚先生の学生時代の物語で『湘南純愛組』っていうマンガにはまりました。鬼塚の男としての生き方に憧れます。あとは『バッドボーイズ』。どちらも主人公に感情移入しちゃいますね。両方不良漫画ですけど（笑）。

PIANO

ピアノの音色が好きです。ピアノ1本の楽曲とかすぐ耳に入る。ブライアン・マックナイトの弾き語りとかやばいですよ（笑）。だから自分でもライブで披露できるように練習中です。

PRESENT

**今市隆二さんのサイン入り色紙を
読者3名にプレゼント！**

応募方法などの詳しい内容は「OKAYAMA MOVE UP」公式 facebook ページよりご覧下さい！

OKAYAMA MOVE UP

検索



新章へ向かう三代目の今を詰め込んだ『THE BEST』『BLUE IMPACT』2014.1.1 リリース！

三代目の初のベスト盤『THE BEST』と、ニューアルバム『BLUE IMPACT』は、1月にスタートするツアーのキックオフアルバム。インタビュー中には「今は話せないんですけどね…（笑）」と、ツアーの内容については、何度もはぐらかされてしまったが、今市は「このアルバムを聴いて、ライブ会場に足を運んでいただければ、最高に楽しめると思います」と断言している。

本人も言うように、三代目において、「作品とライブはまったく別」だが、ツアーと同じタイトルの『BLUE IMPACT』を聞くと、どんなライブを展開しようとしているのかと妄想が止まらない。大合唱になりそうなシングル曲はいわずもがな、いよいよ始まるぞという高揚感にトリ肌が立つ『JSB Blue』、会場全体をより高みへと押し上げる力強いナンバー『Higher』や『SO RIGHT』、そして「三代目にはなかった」という『Forever Together』な

ど、聴きごたえ、見ごたえのある楽曲ばかりだ。ベストアルバム『THE BEST』に収録された楽曲もきっとツアーで披露されるはず。ツアーに参加する人はもちろん、より三代目のことを知りたいという人にもオススメだ。

単独全国ツアーは1月8日スタート

2回目となる単独での全国ツアー『三代目 J Soul Brothers LIVE TOUR 2014 "BLUE IMPACT"』は、1月8日のマリンメッセ福岡を皮切りに全国12都市30公演で行われる。関東圏では、国立代々木競技場第一体育館（1月31日～2月4日）、横浜アリーナ（2月26・27日）がある。詳細は三代目公式サイト（<http://www.jsoulb.jp/>）で。



THE BEST

【収録曲】1. Best Friend's Girl 2. On Your Mark ～ヒカリのキセキ～ 3. 1st Place 4. LOVE SONG 5. 次の時代へ 6. FIGHTERS 7. リフレイン 8. Go my way 9. 花火 10. (YOU SHINE)THE WORLD 11. Powder Snow ～永遠に終わらない冬～ 12. LOOK @ US NOW! 13. 君の瞳に恋してる -Can't Take My Eyes Off You- 14. BURNING UP 15. Japanese Soul Brothers 16. 24karats TRIBE OF GOLD / EXILE TRIBE
※ブルーレイ・DVDには、収録曲すべてと『FIGHTERS』3バージョンのミュージックビデオ、ライブ映像を収録。

BLUE IMPACT

【収録曲】1. JSB Blue 2. Higher 3. SPARK 4. 冬物語 5. Back In Love Again 6. SO RIGHT 7. Waking Me Up 8. T.T.T. (Top to Toe) 9. Forever Together 10. PRIDE [Bonus Track] 11. BURNING UP 三代目 J Soul Brothers version -
※ブルーレイ・DVDには、『SPARK』『Waking Me Up』『冬物語』『SO RIGHT』のミュージックビデオなどを収録。

OKAYAMA MOVE UP

日本を元気に

田中 緑

Midori Tanaka

ミス・ワールド日本代表の田中緑さんの実家は後樂園入り口のお土産屋さん。東京に出て夢をつかんだ彼女が故郷・岡山への思いを語る。



撮影・神谷

絶対にミス・ワールドになろうと決めていた

「岡山には18歳、高校を卒業するまでいました。両親も岡山なので、生粋の岡山っ子です(笑)。実家は後樂園の入り口でお土産屋さんをしています。きびだんごとか、ママカリとか岡山の名産・特産品、それに桃太郎グッズなど、“ザ・お土産屋”です(笑)。ずっとそこで育っていたんですが、中学生ぐらいから、東京に出てモデルになりたいという夢を持っていました。岡山ではそういう活動をしていなかったのですが、たまたま母と東京に遊びに行った時に、モデル事務所にスカウトされて、それがきっかけで、東京に出てきました。そのスカウトした事務所には少ししかいなかったんですけど、普通にアパレルのバイトをしている時にまたスカウトされて…。そのあと、いろいろ自分で方向性を考えて、結局今の事務所にお世話になることにしました。2010年にオーディションを受けて、2011年度のミス・ワールドになったんですが、その時は絶対に取りに行こうと思ってオーディションに挑みました。ファイナルはステージ上で行われるのですが、そこで自分をどうアピールするか、真剣に考えました。当時は着物モデルの仕事が多かったので、日本代表としてそこを強みにしようと。ですから、髪形もオーディションの前に黒髪のおかっぱにして、インパクトを持たせたり、パフォーマンス審査のために、津軽三味線を習ったりしました。今でも津軽三味線は大好きですし、せっかく買ったので余裕ができたら続けていきたいです。あとは着物姿とドレス姿と水着審査。私は18番だったので、結果発

表のときは、心の中で“18、18、18”ってずっと言っていました。ですから、逆に“18番”って言われた時に、自分の心の声なのか、よく分からなくなって、“エッ？ 何番って言ったの？”って(笑)。すぐに両親に電話をしたら“ハッ？”とか言って、全然信じてもらえなかった(笑)。でも親戚とか知り合いとかからすぐに両親に連絡してくれたみたいで、やっと信じてもらいました。岡山の人がとっても喜んでくれて、すごくうれしかったです。あと、私がミス・ワールド日本代表になった2011年って、あの東日本大震災の年で…。ちょうどミス・ワールドに決まってすぐに、あの地震が起こったので、改めてミス・ワールドとして責任感を持たなきゃと思ったのを覚えています。世界に対して伝えたこと、伝えなきゃいけないこともいっぱいあったし、それは自分の役目なんだと常に心に置いていました。被災地にボランティアに行ったり、歴代のミス・ワールドの方が日本で活動してきたことと違うこともたくさんしたりしましたが、それまでのミス・ワールドには経験できないことだったので、そういう時に自分がミス・ワールドになれて良かったと思っています。海外のミス・ワールドの仲間たちも、すごく心配してくれて、いろいろな事を聞いてきたりしたので、それをきちんと伝えることに使命感を感じて、一生懸命その1年ミス・ワールドとしての仕事をしていました。みんなすごく日本を好きだと言ってくれましたし、そういう気持ちを聞くことができたのもうれしかった。ですからすごくや



1988年10月26日生まれ。岡山県出身。Miss International & Miss World Japan 2011 2011年度ミス・ワールド日本代表。オフィシャルブログ「Midori's Garden Party」(<http://ameblo.jp/midori-tanaka26/>)には、岡山の話も綴られる。

りがいもありましたし、貴重な経験をさせていただいたと思っています」



岡山の美しい景色は世界に誇れるもの

「岡山にはちょこちょこ帰っています。年に4～5回ぐらい…。3年前ぐらいから、岡山の着物ショーのお仕事に呼んでもらうことが多くなって、プライベート以外にも仕事で帰ることもあります。その着物ショーもおとしぐらいから、後樂園の中の能舞台でやるようになったので、家族全員で見に来る（笑）。好きな場所はやっぱり後樂園。ずっとその周りで育っているので、大好きですね。敷地もすごく広くて気持ちがいいし、季節ごとに変わる景色が素晴らしい！ 私は桜の季節が一番好きなんですけど、この前11月に帰った時には紅葉がすごくきれいだったので、改めて日本の四季の移り変わりは美しいなと感じました。あと、日本伝統の美しい町並みがあるところも好きです。美観地区とか、本当に全世界の人に教えたいです。そんなに派手ではないけど、それが岡山らしくていいかなって（笑）。それに、“晴れの国岡山”と言われるぐらい気候が温暖で、災害なども少ないので、穏やかな人が多い気がします。喋り方とかもゆっくりな人多い気が…。それって私の周りだけかな（笑）。好きな食べ物は白桃！桃がすごく好きなんですけど、岡山の桃は日本で一番おいしいと思います。きびだんごも好きですけど、定番になっているし、白桃にはかなわない（笑）。東京で食べようとするときすごく高いので、あまり食べたことがないっていうお友達がいて、プレゼントすると、すごく喜んでくれます。“こんなおいしい桃は初めて食べた”って言われるので、本当に自慢です。実家のお土産屋でも夏には白桃のかき氷をやっていて、すごく人気

だし、私も大好きですね。多分今の若い人たちは海外にあこがれていたり、日本の本当の良さを知らない人が多いと思うんです。日本にいても岡山に行ったことがない人もたくさんいると思うし。だからもっといろいろな所に行って、いろいろなものを見て、日本のことを知ってほしいです。逆に、海外のミス・ワールドの仲間たちのほうが、

日本のことを良く知っていたり、日本を大好きって言うてくれたりしますね。それは場所だけじゃなくて、着物を着ていたらすごく褒められるし、日本のおいしいものもよく知っている。岡山の景色もそうですし、日本の伝統的なものは、世界に誇れるものなんだと自信を持ってほしいですね」

モデルとしてもっと上を目指したい

「今後はファッションがすごく好きなので、ファッションのお仕事の幅を広げていきたいと思っています。将来的にはアクセサリーのデザインなんかもやってみたい。あと、今やっている雑誌やショーなどももっと頑張りたいですね。一番多くやらせてもらっているのがショーなんですけど、ランウェイを歩いている時とかすごく楽しいし、モデルとしてももっともっと上に行きたいと思っています。私はモデルにあこがれて、岡山から出てきましたが、東京で生活するようになって、より岡山の良さが分かるようになりました。正直、東京の華やかさにあこがれていたもので、学生時代は岡山の良さを覚えることがあまりなかった。当たり前過ぎて、それを考えていなかったんだと思います。でも東京に来て、たまに岡山に帰るようになって、自分が生まれた場所がこんなにいい

場所だったんだって気づけた。だから今岡山に住んでいる人は、住んでいる時にそれを感じてほしいと思います。あと、ミス・ワールドになったことで、岡山の人たちが喜んでくれて、お土産屋さんに来てくださったり、ブログに応援のメッセージを書き込んでくれたりするので、すごく心の支えになっています。そういう方たちに、もっと頑張ります！って言いたいですね」



MIDORI'S POSITIVE ITEM

いつも前向きな田中緑さんの
ポジティブアイテムを紹介

Hobby

お菓子作りが大好きです。特にケーキ作り。誕生日やバレンタインやクリスマスなどイベントがあると、普通に友達にあげるために、ホールケーキを焼くぐらい好き！あとは、パン教室に3年通っていて、パン作りも好き。



Movie

『きみに読む物語』は、ワンシーン、ワンシーンの画がすごくきれいで感動しました。恋人同士だった男女が年を取って、身近な場所にいるんですけど、そのおばあちゃんが認知症で何も覚えていない。だからおじいちゃんが毎日出会いからの2人の物語を話をしあげてくれるんです。それでおばあちゃんも昔のことを思い出しますが、次の日になったら忘れちゃう…。すごく複雑な切ない物語で、飛行機の中で見て号泣してしまいました。



Karaoke

カラオケが大好きで仲の良い友達としょっちゅう行っています。よく歌うのは絢香さん、JUJUさん、中島美嘉さんなど。



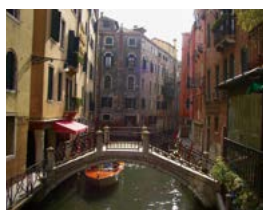
Artist

秦基博さんに男性の色気を感じます。声も好き。透明感があって、爽やかで…。『虹が消えた日』という曲が今のお気に入りです。



Place

イタリアのベネチアに行ったとき、駅を降りた瞬間に物語の世界に入った気持ちになりました。海に浮かんでいるように見える家とか、まるでディズニーシーの町並みみたいで。現実のものというより、セットみたいな感覚で、本当に人が住んでいるのかわからないくらい。





2013.12.8
RADIO JAPAN MOVE UP
special edition
at okayama move up cafe

JAPAN



I MOVE UP!!



ダンスのチカラで日本を元気に!!

今回で第5回目を迎えた“JAPAN MOVE UP”SPECIAL EDITION岡山公開収録。今回の収録もOKAYAMA MOVE UPのコンセプト店舗「MOVE UP cafe」にて開催された。

この日スペシャルゲストとして登場したのは、EXILEのTETSUYA。ゲストがTETSUYAとあって、抽選で選ばれた約170名の観覧席は女性だらけ。MCの声がかき消されるほどの大歓声でTETSUYAを迎え入れた。

MCのChigusaとはかつてダンス教室で一緒だったという。「久しぶりですね。昔は同じ先生のもとでヒップホップダンスを毎週木曜日に踊ってましたね」と、思い出話に花が咲く。Chigusaいわく、「そのときから群を抜いてダンスがうまかった」とのこと。

EXILEは2013年も怒涛の一年だった。「今年はHIROさんがパフォーマーを勇退されるということで、EXILE PRIDEというテーマを掲げ活動してきましたが、すごく意味深い一年だったなと感じます」と振り返る。「僕の立ち位置はHIROさんの斜め後ろくらい。何を踊っているときもHIROさんの背中をずっと見ながらダンスしているので、背中から学ぶという感覚は大きいですね」とHIROさんへの思いを語った。

そして後半では、TETSUYAが雑誌『月刊EXILE』で行う、パフォーマンス力を上げることを目的とした連載「EXILEパフォーマンス研究所」と、そこから派生した「TETSUYA'sカリキュラム」の話へ。



さらにこの日は、TETSUYA自身も実際に取り入れているトレーニングの一つ、“リズムトレーニング”を研究・開発された、日本ダンス教育躍動協会理事で美作大学准教授の津田幸保さんもゲストとして登場し、リズムトレーニングについて熱く語った。

このトレーニング、まっすぐなラインを引き、そのラインを障害物としてさまざまなジャンプをするというとてもシンプルなトレーニング。「ジャンプをすると体も跳ねると同時に、不思議なくらい心も跳ねるんです」と心も体も解放されるリズムトレーニングの魅力を語るTETSUYA。

このトレーニングは3歳程度の子どもから年配の方まで幅広く行えるということも魅力の1つ。老化防止や集中力UPにも効果があるとのこと。

そして、“言葉だけでは伝わらない”ということでトレーニングの実践へ。観客席から数名を壇上に招き、一緒にリズムトレーニングを実践した。この日のレッスン曲は冒頭のロールダンスが象徴的な、EXILEの代表的楽曲“Choo Choo TRAIN”。“Choo Choo TRAIN”のリズムに合わせて、数パターンのジャンプを行ったあと、これまでのジャンプを組み合わせ、全員でパフォーマンス。会場皆さんの手拍子に合わせて、驚くことに短時間で“Choo Choo TRAIN”が完成したのだ。

この数パターンのステップで、楽しみながらダンスが完成するということも、リズムトレーニングの醍醐味のようなのだ。

今後もOKAYAMA MOVE UPでは、リズムトレーニングの活動を追いかける予定。今後の活動展開にもぜひご期待ください。



Thank you! TEACHER

vol.06

番外編 チャリティ・キッズ・ベースボールスクール 2013 未来のプロ野球選手を目指せ！

元プロ野球選手で現在、野球解説者・評論家として活躍する工藤公康氏が「チャリティ・キッズ・ベースボールスクール 2013」（主催：二十一世紀倶楽部、夢の課外授業実行委員会）を開催。都内の10チーム約100人の未来のプロ野球選手たちが参加した。

この企画は、21世紀における人材創りを目的に1987年に設立された団体である「二十一世紀倶楽部」の会員である工藤氏の「野球を通じ次世代を担う子供たちの人材育成の一助になれば」という思いから始まったもの。1994年にスタートし、今回で20回目を迎えた。

毎回、現役のプロ野球選手が多数参加し、直接子供たちに指導をする。ふだんテレビで見るか、球場に足を運んでもスタンドから見るだけのあこがれの存在と接することができることあって、子供たちには至福の瞬間だ。

今年、先生を務めるのは、工藤氏の他には巨人

の山口鉄也（投手）、笠原将生（投手）、河野元貴（捕手）、寺内崇幸（内野手）、鈴木尚広（外野手）、DeNAの山崎憲晴（内野手）、ヤクルトの山田哲人（内野手）、上田剛史（外野手）の8選手。

先生たちの紹介の後、まずは野球の基本であるキャッチボールの指導からスタート。山崎と寺内が実際にプロのキャッチボールを見せる。「できる限りクロスして投げるように」「ヒジが下がらないように。下がったままのフォームで投げていると肩やヒジを痛めちゃうから」と工藤氏が分かりやすい言葉で解説後、子供たちは実技へ。グローブにボールが収まるときの“パーン”という小気味のいい音が練習場に響く。

そしてそれぞれのポジションに分かれての指導へ。ピッチング指導は二手に分かれる。一つはもうすっかりおなじみとなったビニールバットを使ってのフォームの練習。「（腕が）高い状態で上から振り下ろす」。工藤氏の実演を見ながら見よう見まねでトライする子供たち。このトレーニングも「速い球を投げるためにやっているんじゃない。いいフォームで投げられるための練習。いいフォームじゃないと肩を痛めてしまうから」とやはり力点は“ケガをしないこと”

に置かれる。内野手は緩いゴロを転がし、捕球時のグラブの角度と捕球からフィールディングへの動きを指導。そしてノックの後は、ゲッツーの時のベースの入り方とボールの投げ方と、子供にはちょっと難しそうなプレーまで。捕手組はキャッチングとスローイングの基本である「しっかり捕って素早く投げる」という動作を反復。外野手組はノックでフライの追い方と捕ってからすぐ送球体勢に入るための動き方を指導する。すべてのポジションでいえることは基本が大事ということ。

練習の最後はこれまた恒例のプロ vs 子供たち代表との対決。笠原と山口が投げる球に必死でバットを振る子供たち。チームメイトの応援にも熱がこもった。

この企画はただ野球がうまくなればよいというものではない。だから強く注意することも。キャッチボールのときは間隔が狭いこともあり、ちょっとした気の緩みが危険を招くからだ。「相手が見ていないときに投げちゃダメ。見ているのを確認してから投げること。そうしないとケガにつながるから」。ついつい注意を怠ってしまったプレーには「危ないぞ」と注意をする。やや引込み思案気味の子供には「返事は!？」と挨拶の大事さを伝えることも忘れない。

そしてイベントの最後には工藤氏が「今日学んだことは明日からも続けてください」と挨拶。この子供たちは野球以外にも、基本、継続、挨拶、相手を思いやる気持ちといったさまざまなことを学んだに違いない。



Be POSITIVE

Culture/Item/Entertainment and more

人に元気を与える人になるには、自分自身が元気でハッピーじゃなきゃ。ムカつくこと、悲しいこと、情けないこと、失敗すること、心が痛くなる出来事…。毎日毎日嫌なことはあるけど、ほんの少し見方を変えて見ることで、気持ちは前向きに立て直せるはず。そんな時、そっと背中を押してくれるさまざまなモノ。友達、家族、ペットなど心許せるモノをはじめ、楽しい映画、ノリノリの音楽、感動的な本など、心に響くものを誰でもひとつ持っている。

また、それだけではなく、髪形を変えたり、旅行に行ったり、美味しいものを食べたり、やってみたかった習い事に挑戦したり、自分を変えてみることで、人生が楽しくなる方法もたくさんあるはず。そんなポジティブになれる最強のカルチャーやアイテムやエンターテインメントなどをご紹介します。あなたの気持ちがハッピーになるようなモノに出会えますように。

2014年、話題になりそうなモノをピックアップ！

大麦パワーに注目！

近年の健康ブームにより、白米が主流だった主食にも、玄米や雑穀などが用いられるようになってきた。そんな中、最近注目を集めているのが「大麦」。雑穀の中のひとつだが便秘やメタボの解消、コレステロールの低減、糖尿病の予防などの機能性があると期待できるということで、その注目が一気に高まった。実際、もち性大麦「もち麦」は、白米の25倍、玄米の4倍もの食物繊維を含んでいるほか、腸内環境を整え、免疫力を高めると言われているβ-グルカンも多く含有。その健康価値は、2013年、科学的に「健康機能性に根拠がある」と認められたことで、健康食材としての地位を確立した。



洗ったお米に混ぜて炊飯器で炊くだけ「もち麦ごはん」12袋入、430円（はくばく）

水素水でサビない体に！

酵素、炭酸（二酸化炭素）商品が人気だった昨年。今年はさらに、水素が話題になりそう。活性酸素を除去し、サビない体を作ると言われている水素水だが、販売されている水素水の中には、濃度が薄まる、水素の含有量が少ない、賞味期限が短い、値段が高いなどそれぞれに欠点があったことも確か。しかし、昨年発売されたミネラルウォーターから手軽に水素水を作ることができるポータブルの水素水生成器「Magic Shake（マジックシェイク）」の販売で、水素水がぐんと身近に。わずか3分ででき、おいしさをキープしたまま水素を長時間溶存可能。いつでもどこでも水素水を摂取できる。【URL】<http://www.antibacjapan.com/>



「USEN 550ch × HMV」配信開始 スマホでUSENを持ち運ぼう！

USENは、スマートフォン向け定額音楽配信サービス「スマホでUSEN」の提供を開始した。ラジオ型配信スタイルにこだわった同サービスは、先行する音楽配信サービスが、リスナーがお気に入りの楽曲やアーティストを探し聴取するのに対し、未知の楽曲との出会いを創出することで、より幅広い音楽体験を提供する。

また同日、ローソンHMVエンタテインメントと協業し、「スマホでUSEN」をもとに、スマートフォン向け音楽・エンタメコンテンツの定額配信サービス「USEN 550ch × HMV」も配信開始。月額490円（消費税込、登録初月無料）で、550ch以上の音楽・エンタメコンテンツをいつでも自由に聞くことができる。音楽系では、最新J-POPをはじめ、あらゆるジャンルを用意。また、外国語講座やトークバラエティーチャンネル、さらには、受験生やランナー、アンチエイジングを目的に効果を追求した番組など多彩なチャンネルを揃えた。さらに、楽曲は「HMV ONLINE」とリンクしており、気に入った音楽のCDをすぐに購入することも可能となる。

サービス提供日の12月3日に会見に出席したUSENグループの宇野会長は「このサービスの登場は歴史的1日になるだろう。スマホがあれば、いつでもUSENが簡単な操作で聞くことができる。来年には1000チャンネルまで増やしたい」とコメント。また、ローソンHMVエンタテインメントの坂本健社長は「このサービスを新しい音楽の出会い・発見の場にしてもらい、CD、DVDを含む音楽市場の活性化を目指したい。3年後には100万会員を目指す」と目標を掲げた。

また、この日はトークバラエティーのチャンネルを持つ国生さゆりと、ジルデコアソシエーションのchihiRoも登場。「多くの方にジルデコの音楽を耳にさせていただく機会が増えそうで楽しみ！」(chihiRo)。「自分の時間に合わせて好きな音楽やトークが選べるのは革新的。自分流の楽しみが見つけれそう」(国生)と同サービスに期待を膨らませた。



【利用料金】月額490円（消費税等込み）

【対応機種】Android4.0以上、iOS6.0以上を搭載のスマートフォン

【利用方法】「スマホでUSEN」Webにて会員登録を行い、アカウントIDを取得 → Google Play、App Storeから「スマホでUSEN」アプリをダウンロード → アカウントIDをアプリに入力し、サービスを利用開始※データ通信可能な環境が必要

【決済方法】クレジットカード

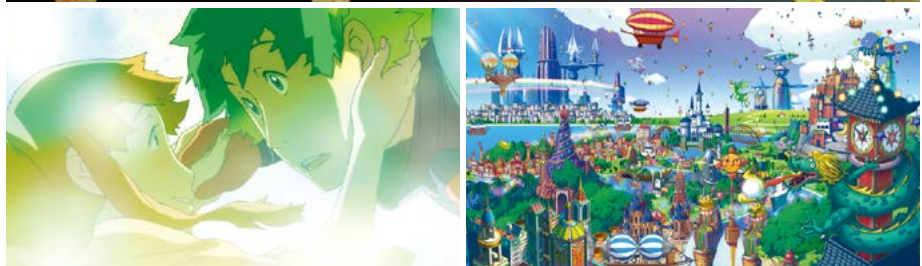
【主な番組内容】最新J-POP、NEW ARRIVAL 洋楽、1980's HITS（洋楽）、BLUE NOTE 名盤倶楽部、2000's HITS（J-POP）、大人のJ-POPカヴァー、HEAVY METAL、Electronic Dance Music、谷村新司の放送して委員会@スマホ部、はじめての…洋楽、ECC提供語学チャンネル（英語、中国語、韓国語など）、走り初めの初級ランナーに～8分/km（J-POP、洋楽、CLUB/DANCE）、フルマラソンを目指す上級ランナーに～6分以下/km（J-POP、洋楽、CLUB/DANCE）

【URL】<http://smart.usen.com/>

TOYOTA × STUDIO4°Cがコラボ 『PES』が提案する“環境総合力”

性能や複雑な機能だけではなく、移動をプロデュースしてくれるクルマ。そこで、自動車のグローバルカンパニーである「TOYOTA」は、社名の中に潜む、人々の楽しみやときめきといった気持ちの原点である「TOY (=おもちゃ)」をコンセプトに、「移動の喜び」を発信する「ToyToyota」プロジェクトを始動。その中で、クルマの本質的な価値を、オリジナルキャラクターを使ったアニメーションで伝えていこうと2012年に「PES (Peace Eco Smile)」が誕生。常に、独創的、ハイクオリティーな映像表現に挑むクリエイター集団 STUDIO4°Cとのコラボにより、クオリティーの高いオリジナル・アニメーション制作が実現した。

2013年は新たに「NEXT GENERATION」として、“環境総合力”をテーマに、個性的な監督たちによる、想像力あふれるアニメーション作品を制作。アニメーション作品を通じて、世界に、子どもから大人まで世代を超えて、特にアートを愛する人たちにメッセージを伝えていく。これらのアニメーションは、特設サイト PES (Peace Eco Smile)、YOUTUBE チャンネル (NaSuBi TV)、Twitter (@pes_nasubi)、Facebook (<https://www.facebook.com/PES.ken.minai>)、Google + (<https://plus.google.com/101278343057871579865/posts>) で視聴可能。



「Anime Festival Asia シンガポール 2013」にブースを出展

11月8～10日までシンガポールで開催されたアジア最大規模の日本のポップカルチャー・イベント「Anime Festival Asia (AFA) 2013」に、「PES」のブースが出展。会場には、アニメ応援プロジェクト「A応P」が「PES」のために、シンガポールまで駆けつけ、ミニライブやサイン会を開催。来場者と一体になって会場を盛り上げた。ブースでは、アジア地域の日本のポップカルチャーを愛する人々がPESの世界観を存分に満喫していた。

DANCEの道

EXILE TETSUYA “男を上げる” Monthly Column supported by ANGFA

第16回「DANCE is a LANGUAGE...」この言葉は僕にとって今年1番の宝物です。

2013年10月某日、僕はアメリカのCHICAGOに降り立った。空気を思いっきり吸い込み、日本よりも数倍の肌寒さを感じ、これから3日間のスケジュールに緊張とワクワクを同時に抱きながらホテルへ向かう。

成田空港から約12時間。CHICAGOのあるイリノイ州は、アメリカの中でも少し北に位置し、ミシガン湖という湖がある。初めて見たときは海と間違えたくらいデカイ湖で、水平線が見えるほど。CHICAGOの街にはミシガン湖に向かって川が流れていて、その川に架かる橋は時間になると真ん中から真っ二つに割れて船を通すために豪快に動き出す。その光景がなんだかかっこよく見えて日本ではない国に来たんだなあ実感させてくれた。

今回のDANCEの旅は先日放送されたBSプレミアムの番組で、スタッフさんがメンバーのUSAさんのDANCE EARTHというプロジェクトを観てぜひ番組にしたいと熱望し企画が実現しました。USAさんがその旅のパートナーに僕を選んでくれ、同行できたので、本当に感謝しております。

旅の目的は3年前にUSAさんが出会った「CHICAGO FOOTWORK」という世界最速ステップのDANCEに再チャレンジすること。しかし、こんなに勝ち目のないバトルをするのは初めて。「JUKE」という音楽で踊ったこともないし、「FOOTWORK」というDANCEの基礎すら

知らない。僕は、映像を見ながら見よう見まねで踊ってみた。5分も踊れば汗だくになり心拍もかなり上がってしまうくらいの高速度なビートで、今までのDANCE人生の中で一度も経験したことのない感覚に、焦りと不安だけが走る。しかもバトルの相手はFootworKINGZというこのジャンルのシーンでは世界最強のクルー。リーダーのKINGCHARLESとPRINCE JRONはマドンナのワールドツアーにも出演していた。そんな2人を筆頭に9人ものメンバーが集まった。久しぶりのDANCEバトルに、震えるほどの緊張とワクワクがバトルが終わるまで続いた。

結果は言うまでもなく。正直悔しさもありますが、何よりあの時のメンバーである瞬間にしかできないDANCEを誰一人手を抜くことなく全力で踊れたことが、とにかくうれしかったし、心から楽しかった。

FootworKINGZのメンバーはCHICAGOという土地でギャングになるかDANCEチームに入るか、そんな厳しい環境の中でDANCEを選び、自分を表現している。とにかくDANCEを愛しDANCEと共に生きることが、英語が分からない僕にも分かった。言葉のない表現、心も体もオープンにできるDANCEだからこそ、理解できることがたくさんありました。

最後にKINGCHARLESが言っていた「DANCE is a LANGUAGE...」。この言葉を体感できたことが2013年の



僕の宝物です。FootworKINGZの皆さん、スタッフの皆さん、BOBBYさん、TAKUMA君、そしてUSAさん素敵な旅をありがとうございました。

神奈川県横須賀市出身。19歳からダンスを始め、横須賀、横浜、東京などのクラブイベントで活動。2004年8月、EXILE主演ミュージカル「HEART OF GOLD～STREET FUTURE OPERA BEAT POPS～」に出演。ダンススクール「EXPG」にてインストラクターをしながら、さまざまなアーティストのバックダンサーとして活動。2007年1月、新生J Soul Brothersのメンバーに抜擢され、2009年2月にデビュー。同3月1日からはEXILEのパフォーマーとして多方面で活躍。出演中のアンファー「薬用スカルプD」のCMが現在オンエア中。

POSITIVE | 金言 | 「楽なものは求めてはいない。楽なものは自分を成長させない。楽なものは自分を考えさせてくれない」(マドンナ)

ACROSS THE RAINBOW special interview

岡山の歌姫“Chii”

岡山市商店会連合会が主催した“岡山歌姫オーディション”で見事グランプリを勝ちとり、歌手としての活動を始めた岡山歌姫chii。弱冠18歳の彼女が等身大の想いを語る。

岡山の素晴らしさを歌に乗せて伝えたい。

Q1.歌手を目指すようになったきっかけ

もともと歌手になりたいと思っていたわけではないんです。リハビリの先生になりたいくて、高齢者施設でボランティアをやっていたんです。そこでおじいちゃんやおばあちゃんに、自分の好きな歌やダンスを披露していました。この世界に入ったのは、思い出作りと人生で初めて応募した“歌姫オーディション”がきっかけだったんです。そのオーディションでグランプリを頂いて、本当にびっくりしました。(笑)

Q2.今の仕事にやりがいを感じる時は

これまで以上に多くの人とのつながりができることや、自分の曲を聴いて元気になったと言ってもらえたときですね。自分が少しでも何かのチカラになれているならうれしいです。

Q3.今の仕事を始めて学んだことは

自分がやりたいと思ってやるのではなく、まず相手の気持ちを考えて行動することです。例えば、当日の状況によって曲順を変えたり、MCでも相手に語りかけるような口調でしてみたり。常に相手のことを考えて行動すると、反応がよかったりするんです。

Q4.これだけは誰にも負けたくないというところ

オーディションでも言ったのですが、『岡山が大好きだ!』という想いですね。あとは、インパクトとトークです(笑)

Q5.今後の夢・目標

今まで、歌手になりたいと思っていたわけではないのですが、「岡山を元気に」する歌手になっていきたいです。また当初からの自分の夢でもあるリハビリの先生もあるので、“歌って踊れるリハビリの先生”になりたいです! 岡山で知らない人はいないぐらいになりたいです。

— 今後は活動拠点を岡山以外にも広げたいですか？

それはいいです。今後も岡山を背負って、岡山の良いところを発信できるように活動したいです。歌がうまい方はたくさんいる中で私が今回のオーディションで優勝できたのも、「岡山が大好き」という気持ちの強さが届いたからだと思います。今後もその想いを岡山でつかっていききたいですね。



岡山歌姫 Chii (チイ)

2013年夏、岡山市商店会連合会主催により、100人以上の応募者のなかで選ばれた「岡山歌姫オーディション」。圧倒的なパフォーマンスで同大会グランプリを獲得。岡山の歌姫として同年の11月2日にデビュー! 人々に元気を与え、岡山を盛り上げていく。



Debut Single

「ええじゃないかの唄」



片山 進平 Shimppei Katayama (写真左)

1980年9月10日生まれ。岡山歌姫Chiiが誕生した「岡山歌姫オーディション」の仕掛人であり、現在は、中之町街づくり株式会社 代表取締役社長を務める。その他にも、岡山歌姫Chiiの歌う楽曲の作詞・作曲も手掛ける。

岡山歌姫Chiiが誕生した、「岡山歌姫オーディション」の仕掛人であり、中之町街づくり株式会社 代表取締役社長の片山さんが語る今後の商店街。

— 中之町街づくり株式会社を始めたきっかけは？

岡山に帰って来て10年になるのですが、最初は商店街連合会の青年部に所属していて、何か商店街を盛り上げる企画を考えていました。そこから理事になり、予算などを把握しながら企画立案などをしていたのですが、やはりこれまでの寄り合いのような商店街活動では、太刀打ちできないと思い、もっと色々なことを仕掛けていかなければ、という思いから会社を設立しました。

— 中之町街づくり株式会社を始めたきっかけは？

来年秋に、某ショッピングモールができるとは言うものの、今は正直言って商売として成り立っていないという現実があります。その中でさまざまな構想はあるのです

が、やはり商店街にしかない魅力がたくさんあるんです。まずはそれを取り戻し発信し、また自分ができる音楽というものを取り入れ、盛り上げていきたいですね。

— Chiiさんへかける想い

若いころは自分も前に出て演奏をしていましたが、今はプレイヤーではない自分もいいのかと。今の目標は自分が手掛けた曲が世に出ることなので、これを生涯の中で達成したいですね。ラッキーなことに曲を作るのはおじいちゃんになってもできますからね(笑)。商店街を盛り上げる一環として、自分にできることは音楽です。だから、Chiiちゃんには自分の曲を歌ってもらい、がんばってほしいですね!